

コープこうべ コミュニケーション レポート

2026

2025年度報告



INDEX

ターゲット2030と「3つの柱」	2
生協・コープこうべについて	4
ターゲット2030 × SDGs	5
「3つの柱」の実現に向けた主な取り組み	
1 お買い物を通じた くらしの安心づくりをすすめます	6
2 いきいきとしたくらし、地域の つながりづくりをすすめます	10
3 環境や社会のためになる 活動・事業モデルを促進します	14

持続可能な経営基盤の確立に向けた構造改革	
宅配事業の基盤整備	18
店舗事業の構造改革	19
学び合い・教え合いの継承	20
健全な職場環境づくり	21
コープ商品について	22
はかるたいせつPROJECT	23
2025年 特別な思いを寄せて	
阪神・淡路大震災から30年	24
終戦から80年	25
2025国際協同組合年	26
8つの地区について	27

コミュニケーションレポートとは

組合員や地域の皆さんとのコミュニケーションが深まることを願い、作成したレポートです。
コープこうべの取り組みを「3つの柱」やSDGs(持続可能な開発目標)を基調に編集しています。

ターゲット
2030

コープのあるまち 協同のある暮らし

ありたい未来
(まち 暮らし)

2030年に私たちは、どのように暮らしていたいか。
創立100周年を迎えた2021年に組合員、役員・職員の知恵と想いを寄せ合って策定した「ビジョン」。

誰もが地域で安心して暮らせるように、未来の子どもたちが笑顔であふれるように

つながり

人と人がやさしさで
つながり、助け合える

健康

健康でいきいきとした
毎日を送れる

環境

自然環境と
共に生きる

あんしん

みんなが笑顔で、
安心できる

中期
経営計画

(2023年度～
2030年度の8年間)

前期

(2023年度～2026年度)

変革・礎を構築します

後期

(2027年度～2030年度)

発展・創造をめざします

3つの柱

「ありたい未来(まち 暮らし)」に向かう
コープこうべの役割

2023年、ありたい未来に向かう道しるべ「中期経営計画」をスタート。
この中で、コープこうべの役割として「3つの柱」を掲げ、取り組んでいます。

1

お買い物を通じた
くらしの
安心づくりを
すすめます

→P06～09

2

いきいきとした
くらし、地域の
つながりづくりを
すすめます

→P10～13

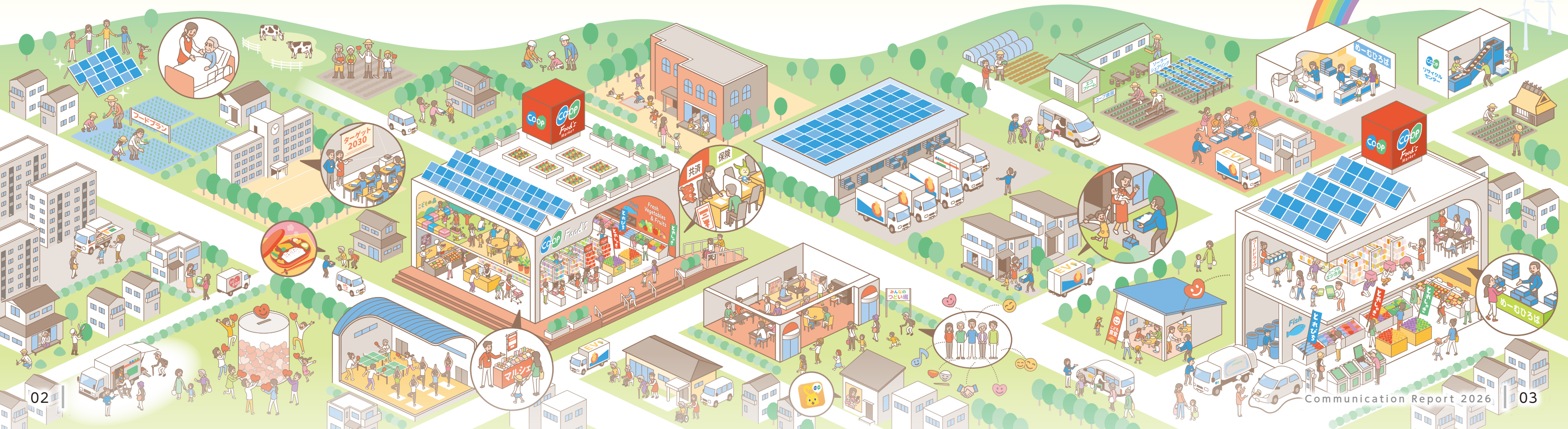
3

環境や社会の
ためになる活動・
事業モデルを
促進します

→P14～17

持続可能な
経営基盤の確立に
向け、構造改革を
すすめます

→P18～20



生協の仕組みとコープこうべの原点

生活協同組合について

生活協同組合（生協）は株式会社と異なり、一人ひとりがお金を出し合い、みんなで商品やサービスを利用し、活動や事業の運営に参加する組合員が主役の組織です。一人ではできないことも、みんなで助け合って夢や希望を形にし、より良い暮らしをめざしています。

組合員が
主役の組織
なんだね



出資

組合員、一人ひとりが
出資金を持ち寄ります。
商品づくりや宅配・店舗の
運営など、あらゆる活動や
事業の大切な資金です。

利用

宅配や店舗での買い物、
さまざまなサービスを
みんなで利用することで
生協を大きく育て、
協同の輪を広げます。

運営

みんなの声を寄せ合って
商品の開発・改善、活動や
事業を行い、安心して暮らせる
豊かな地域づくりに
つなげます。

コープこうべについて

第一次世界大戦後の深刻な状況で、人々は苦しい生活を強いられていました。

その中で「確かな品質の商品を適正な価格で手に入れたい」という消費者の切実な願いを実現するため、1921年に2つの生協が誕生しました。

これがコープこうべの前身である「神戸購買組合」と「灘購買組合」です。

神戸購買組合



灘購買組合



コープこうべは1921年の創立以来、不安を安心に、そして困難を希望に変えるため、組合員と役員・職員が心と力を寄せ合い、「協同の力」でくらしの安心を紡いできました。私たちは創立の指導者である賀川豊彦の「愛と協同」の精神をいつの時代も揺らぐことなく受け継いでいます。



賀川豊彦

ターゲット 2030 × SDGs



コープこうべは、創立100周年の2021年に次の100年を見据えた2030年ビジョン「ターゲット2030」を策定しました。“誰一人取り残さない”社会の実現を掲げるSDGsの考え方に共鳴しつつ、2030年のありたい未来の実現に向け、取り組みをすすめています。

SDGs (持続可能な開発目標) とは…

2015年9月、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。そこに盛り込まれているのが、“誰一人取り残さない”社会の実現に向けた、世界を変えるための17の目標「SDGs(エスディー・ジーズ)」。

途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016年1月に発効されました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ターゲット2030 4つのテーマ	2030年のありたいまち、くらし ／みんなが(で)できること	対応する主なSDGs	共通する SDGs
	人と人がやさしさで つながり、助け合える	貧困 1 貧困をなくそう 産業・技術 9 産業と技術革新の基盤をつくろう まちづくり 11 住み続けられるまちづくりを 生産・消費 12 つくる責任 12 つかう責任	パートナリーシップ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう
	健康でいきいきとした 毎日を送れる	飢餓 2 飢餓をゼロに 健康と福祉 3 すべての人に健康と福祉を まちづくり 11 住み続けられるまちづくりを 生産・消費 12 つくる責任 12 つかう責任	
	自然環境と 共に生きる	水とトイレ 6 安全な水とトイレを世界中に エネルギー 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 生産・消費 12 つくる責任 12 つかう責任 気候変動 13 気候変動に具体的な対策を 海の豊かさ 14 海の豊かさを守ろう 陸の豊かさ 15 陸の豊かさも守ろう	
	みんなが笑顔で、 安心できる	教育 4 質の高い教育をみんなに 性平等 5 ジェンダー平等を実現しよう 成長・雇用 8 働きがいも経済成長も 人権・平等 10 人や国の不平等をなくそう 平和 16 平和と公正をすべての人に	

お買い物を通じたくらしの 安心づくりをすすめます

「週一宅配」を軸に、店舗やその他のサービスを
組み合わせることでお買物を支援し、
安心して暮らすことができる「まち ぐらし」



何の数字

10140食 

夕食サポート「まいくる」の1日平均食数/年間 (P06)



32台38店舗 

「買いもん行こカー」の運行状況 (P06)

55拠点 

近隣に店舗が無い地域で開催する
「地域めーむひろば」 (P09)

「宅配事業」から「買い物支援事業」 への変革をすすめています

週一宅配を中心に、さまざまなサービスを組み合わせた買い物支援をすすめています。夕食のお弁当を届ける夕食サポート「まいくる」は各協同購入センターに「まいくるセンター」(配送拠点)を設置し、「買いもん行こカー」(自宅から店舗まで無料で送迎するサービス)とともに宅配との一体運営を実施。最適なサービスの組み合わせを提案しています。また、これらのサービスは、くらしの見守りにもつながっています。



「まいくる」を紹介する地域担当



「買いもん行こカー」に乗車する組合員

行政と共に子育てを応援

大阪府箕面市が実施する「箕面市見守りおむつ定期便事業」を受託し、10月から訪問を開始しました。乳児のいる家庭を対象に、生後3カ月から満1歳の誕生月まで月1回、紙おむつやミルクなどを無料で配達するサービスです。子育て経験のある担当者が、商品をお届けするだけでなく、健康状態や子育ての悩み、不安がないかなどを確認し、子どもと保護者の見守りに取り組んでいます。



紙おむつやミルクなどを届ける担当者

廃食油の回収を始めました

家庭から出る使用済みの食用油を宅配の地域担当が回収し、リサイクルにつなげるサービスを全ての協同購入センターで始めました。回収した油は、油脂会社に売却し、塗料やせっけん、SAF(持続可能な航空燃料)などにリサイクルされます。また、得られた収益は子育て支援の取り組みに活用しています。



宅配の配達時に使用済み油を回収

組合員ニーズや地域性に応じた 品ぞろえ・売り場づくり

コープ神吉、コープ西宮東をモデル店舗として、「メニュー提案型」の売り場づくりを広げています。4月、JR住吉駅直結の商業施設のリニューアルに伴い、シーアの売り場を改装。モデル店舗の好事例を踏まえ、お買物がしやすく、魅力のある売り場づくりに取り組んでいます。大規模改装の店舗だけでなく、既存店舗にも部分的に好事例を導入していきます。



2025年4月に改装オープンしたシーア

保障を通じたくらしの安心づくり

みんなでお金を出し合って、困った人に役立てる助け合いの心を形にした保障サービス「CO・OP共済」。生まれてくるお子さんのための保障制度「《たすけあい》J1000円コース お誕生前申し込み」は、生まれた日から赤ちゃんの保障が始まる制度で、多くの方にご加入いただいています。これからも保障を通じたくらしの安心を提供していきます。



店内で保障の相談をする組合員

1 お買物を通じたくらしの
安心づくりをすすめます

2 いきいきとしたくらし、地域の
つながりづくりをすすめます

3 環境や社会のためになる活動・
事業モデルを促進します

子育て中の皆さんを応援しています

日本生活協同組合連合会と日本コープ共済生活協同組合連合会が合同で実施する子育て応援プロジェクト「100か月CO・OP」の開始を受け、コープこうべも取り組みをスタート。宅配や店舗、保障サービス、また子育てひろばなどをまとめて紹介するホームページを新設しました。子育てをする皆さんの声に耳を傾け、その思いを形にした商品やサービスで子育てを応援していきます。



店内で100か月CO・OPの取り組みをお知らせ 子育て応援サイト

家族みんなで楽しいお買い物

小学生までのお子さんを対象に、お買い物ごとにレジでもらえるシールを集めると、おもちゃや文具と交換できる「キッズカード」の取り組みをコープミニを除く全店舗で開始しました。ファミリーでも楽しめるお店をめざしています。



キッズカードの景品を選ぶ組合員のお子さん

組合員の皆さんに感謝の気持ちを込めて

想定を上回る物価上昇が続いていることを受け、組合員の皆さんに還元施策を行いました。お米の価格が高止まりしているため、2月～3月に宅配と店舗で「新潟県産こしひかり」「兵庫県産こしひかり」をそれぞれ5キロ3780円、3580円で供給。また宅配では「大還元祭」の企画を、店舗では「全品5%オフ企画」を1週間実施しました。



宅配、店舗で組合員還元施策を実施

地域の拠点で宅配の利用を広げています

地域の拠点を利用した買い物支援に取り組んでいます。近隣に店舗がない地域では、社会福祉協議会などと協力し、買い物の拠点となる「地域めーむひろば」を開催しています。

また地域の集会所やつどい場などを利用し、週一宅配の説明会を開催。商品の試食とともに注文から受け取りまでを体験してもらう「お試し宅配」を実施しました。体験を通じて便利さや楽しさを知ってもらうことで、ご利用のきっかけをつくっています。



週一宅配を体験する地域住民の皆さん

家計の負担を和らげるよう組合員のくらしを応援しました

物価高騰により組合員の家計負担が増える中、日本生活協同組合連合会および全国の生協とともに、「くらし応援全国キャンペーン」を実施しました。宅配や店舗で毎日のくらしに必要な豆腐や納豆、冷凍食品など200品目以上を特別価格で提供し、組合員のくらしを応援しました。



くらし応援全国キャンペーン

主食のお米を継続して供給しました

5月、米市場の混乱が続ぎ、例年の供給数量を確保できなかったことから、政府の「随意契約による政府備蓄米」を申し込みました。安全・安心を最優先に政府のメッシュ検査やコープライスセンターでの細かな検査・点検を行い、6月下旬から供給を開始。主食であるお米を継続して供給しました。



政府備蓄米の売り場を訪れた組合員

もしものときにも役立つコープ商品を学びました

7月、住吉事務所をはじめ11会場で「ラブコープフェスタ」を開催しました。組合員、職員ら約300人が参加。『「備える」を考えよう』をテーマに、ローリングストックやポリ袋クッキングについて学びました。調理や試食も行い、普段から「備える」ことの大切さを感じる機会になりました。



ポリ袋で調理した料理を試食する参加者

「備える」ことの大切さを伝えています

ローリングストック商品の売り場を充実させ、「備える」ことの大切さを伝えています。

また、各家庭に必要な備蓄量や家庭内にある食品の栄養バランスをチェックすることで、何をどのように備えれば良いかを確認できるWebサイト『食の備え BOSA!』を新設しました。



食の備えBOSA!



使いながら備えるローリングストック商品を紹介

1 お買い物を通じたくらしの安心づくりをすすめます

2 つながりづくりをすすめます

3 環境や社会のためになる活動・事業モデルを促進します

いきいきとした暮らし、地域の つながりづくりをすすめます

地域課題の解決に向けて、地域でのつながりや
協働が広がり、地域の団体・個人がそれぞれの力を
発揮し、いきいきと活躍できる「まち 暮らし」



何の数字

約**8900**万円

寄せられた募金の総額 (P10)

年間**3323**人

地域つながるミーティング参加者数 (P12)

92

学校・学生との連携プロジェクト数 (P11)



33カ所

コープのつどい場 (P13)



皆さんからの募金は地域のために

宅配や店舗、またコープこうべアプリでの募金の取り組みで、組合員の皆さんから総額約8900万円の善意が寄せられました。自然災害で被災された方、修学の継続が難しい生徒、暮らしにお困りの方、地域のボランティアを支援する団体などを応援し、より良い地域や社会を実現するために活用させていただきました。これからも一人ひとりの思いを寄せ合って助け合いの取り組みを広げていきます。



募金に協力する組合員



コープこうべアプリのポイント募金の画面



募金の取り組みを報告するポスター

若い世代の活躍を願っています

コープこうべの呼びかけで集まった高校生7人が実行委員となり、5月から企画や運営の準備を行った「サニーフェスタ2025 ～太陽より熱い！ボクらの青春!!～」を10月に開催しました。公募で集まった15の個人や団体が参加し、ステージでは大学の書道会や吹奏楽部などが、日頃の成果を披露。ブースでは高校生が開発した防災食の紹介などが行われ、来場者はワカモノの熱気に圧倒されつつも、楽しい時間を過ごしました。最後のステージでは地元で人気のバンド「ワタナベフラワー」の熱唱で盛り上がり、幕を閉じました。



吹奏楽部の大学生、約60人がステージで演奏



出展ブースでそれぞれの活動内容を紹介



サニーフェスタを運営した皆さん

デジタルツールを使った 助け合い、学び合い・教え合い

コープこうべアプリを通じてゴミ出しなど日常の困り事を近隣の組合員同士で支え合う仕組み「たすけタッチ」の活動は、月400件を超えています。神戸市垂水区でスタートした活動は、東灘区や西区にも広がり12月、累計1万件を突破。2026年4月からは神戸市北区でも展開しています。

また、自分が得意な事を登録する人材データベース「デバンダス.net」に登録した講師が、環境や防災に関する学習会を地域コープ委員会やレインボースクールで開催。デジタルの力で参加の幅を広げ、日常の助け合いや学び合い・教え合いが地域に根付き始めています。



ゴミ出しを手伝う組合員

学んで、伝えて、つながって

組合員や職員が「語り手」となり、エシカル消費やコープ商品を地域の皆さんに伝える取り組みをすすめています。地域コープ委員会ではローリングストックをテーマに「語り手が伝える会」を開催。また防災について学び伝える組合員有志の会「BOSAIキッチンチーム」は、ポリ袋調理やローリングストック商品の紹介、食物アレルギーに配慮した防災レシピの開発などを実施しました。コープ商品を活用し、実践的で暮らしに役立つ知識を広げ、学びを行動につなげています。



ポリ袋で調理するBOSAIキッチンチームの組合員

1 お買い物を通じた暮らしの
安心づくりをすすめます

2 いきいきとした暮らし、地域の
つながりづくりをすすめます

3 環境や社会のために活動する
事業モデルを促進します

組合員と共に子育てを 応援しています

約1万人が登録するコープサークルの中で、組合員集会所やつどい場を活用し、子育てひろばなど、子育てを応援する活動が広がっています。小野組合員集会所では、5月からNPO法人も加わり、困難を抱える子どもや家庭への支援を強化しました。

また約50サークルが地域住民や団体と連携し、定期的に子ども食堂を開催。「フードドライブ」とも連携し、地域ぐるみで子どもを見守る体制づくりをすすめています。



小野組合員集会所で開催している子ども食堂

助け合いの輪が広がっています

兵庫県内の「コープくらしの助け合いの会」では全体交流会を開催し、つどい場でのカフェ運営など活動も広がりました。また大阪北地区の助け合い制度「コープむつみ会」は、社会福祉協議会や地域団体と連携し認知度向上に取り組んでいます。

コープ高砂では「買いまん行こカー」の利用者を支える買い物支援ボランティア活動がスタートし、認知症支援団体と協働で見守り活動を実施。日常の暮らしを支える仕組みとして、地域の助け合いの輪が広がっています。



助け合いのこれからを話し合った
全体交流会

誰もが集える拠点が広がりました

学びと交流の拠点「ふれあいひろば」は、活動相談カウンターを備え、地域活動を始めたい人や仲間を探したい人を支援する場として、年間8万人を超える方が来場しています。6月には「ふれあいひろば コレルせいぶん」を開設し、貸室に加えロビー喫茶やマルシェの開催など、多様な交流の機会が生まれています。

また、コープのつどい場は8月、コープ真面の隣に「咲くらのかけはし」を開設し33カ所に広がりました。子どもから高齢者まで気軽に集える、地域の居場所づくりに取り組んでいます。



8月にオープンしたつどい場「咲くらのかけはし」



学びと交流をテーマに活動を広げる「ふれあいひろば コレルせいぶん」



多世代が交流するつどい場の様子

話し合いをきっかけにつながりを強めています

地域で活動する個人や団体が出会い、つながる場「地域つながるミーティング」。2022年2月のスタート以来、100を超える会場で、年間のべ3000人以上が参加しています。今年度は、「備える」をテーマに多くの実践活動が行われました。コープ播磨では「防災・地域力を高める」をテーマに、停電時にも使える公衆電話の設置場所を記した「地域つながる防災マップ」を作成。播磨町と連携し、町主催の防災ウォーキングイベントで配布しました。これからも地域の商店街や学校などの団体と連携し、地域課題に応じた活動を生み出していきます。



「備える」をテーマに話し合うコープ渦森台の地域つながるミーティング



播磨町主催の防災ウォーキングイベントで
自作の「地域つながる防災マップ」を配布

行政や関係団体と連携し 課題解決に取り組んでいます

10月、西宮市と包括連携協定を締結し、「西宮市居住支援協議会」を設立。行政や関係団体と連携した取り組みを開始しました。住まいに困り事を抱える人を支えるため、関係団体同士のネットワークづくりや相談体制の充実を図っています。

尼崎市と行う住宅支援の取り組み「REHUL」事業は、25団体と協働し、多様な課題に対応しています。

またコープこうべの遊休施設を提供して開設された女性向け共同住宅「六甲ウィメンズハウス」については、子ども食堂や学習支援に協力しています。誰もが安心して住み続けられる地域づくりをすすめています。



大学生が子どもたちの学習を支援
(六甲ウィメンズハウス)



西宮市との協定締結式(右:石井 登志郎市長、左:武本 裕子理事)



西宮市居住
支援協議会
の体制図

1 お買い物を通じたくらしの
安心づくりをすすめます

2 つながりづくりをすすめます
いきいきとしたくらし、地域の

3 環境や社会のために活動
事業モデルを促進します

環境や社会のためになる 活動・事業モデルを促進します

SDGsの考え方を大切に、これまですすめてきた
環境活動や社会貢献を組合員、地域と共に更に
発展させ、ますます参加の輪が広がる「まち 暮らし」



現在の到達点

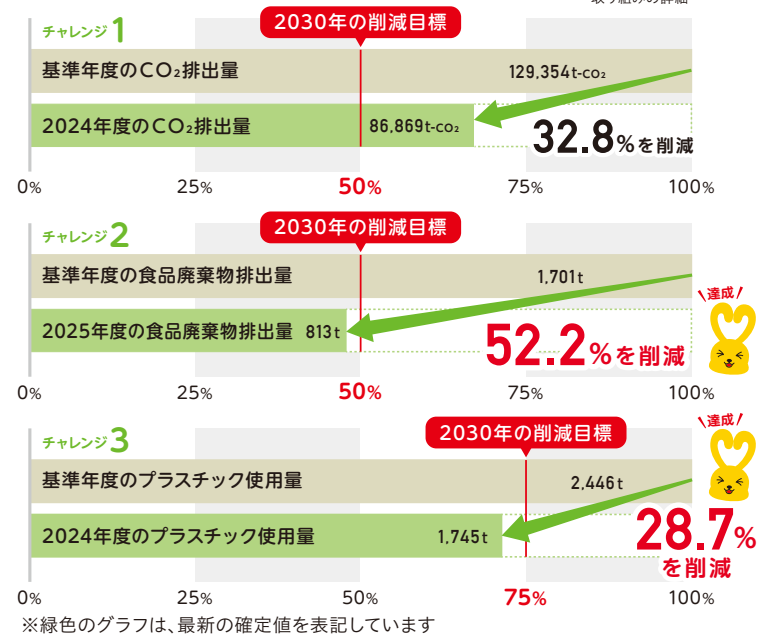
環境チャレンジ目標 エコチャレ2030

2030年に向けた環境チャレンジ目標を2018年度に策定し、取り組みを推進しています。



エコチャレ2030
取り組みの詳細

- チャレンジ1 事業活動におけるCO₂排出量を半減！
2050年度には排出量実質ゼロをめざす！
- チャレンジ2 事業活動における食品廃棄物を半減！
- チャレンジ3 事業活動におけるプラスチック使用量を25%削減！
- チャレンジ4 環境に配慮したエシカルな商品やサービスの開発・供給推進！
- チャレンジ5 組合員とともにエシカル消費を拡大！



障がいのある方が活躍しています

宅配・店舗などのさまざまな事業所で、障がいのある方の雇用をすすめ、多様性を認め合う職場づくりをすすめています。宅配では、全ての協同購入センターで障がいのある職員が活躍しています。

また店舗や地域で宅配商品の受け渡しを行う「めーむひろば」では、障がい者支援団体と共同作業で運営している拠点が、17カ所に増えました。これからも障がいのある方の活躍の場を広げていきます。



宅配の商品出荷や店舗の品出しで活躍する職員(左:協同購入センター但馬、右:コープデイズ豊岡)



地域めーむひろば「そらりす」(新温泉町)で商品の受け渡しを行う福祉施設の利用者

障がいのある方のアート作品を 披露する機会をつくりました

障がいのある方のアート作品を多くの方に見てもらえるよう、コープこうべの店舗などで披露する機会をつくりました。シアアでは、店内を見学し、印象に残った人や商品を描いてもらい、多くの作品が売り場を彩りました。



神戸市西区の「玉津のつどい場 たまろっと」では、地域の障がいのある方から募集した300を超える作品を展示。優秀作品を選び、カレンダーを制作し販売しました。誰もが活躍できる社会になるよう取り組んでいます。



「玉津のつどい場 たまろっと」で開催したアート作品の表彰式

環境を意識した 消費行動について学びました

くらしが環境に及ぼす影響に注目し、日々の買い物や利用するサービスを見直そうと、「地域つながるフォーラム2025」を開催しました。協同組合や行政、企業、地域団体など多様な団体がブースを出展。約400人が参加し、産地の課題解決をめざす商品や資源の有効活用などについて楽しく学びました。「子どもたちが学べるブースがたくさんあり、コープのファンになりました」といった声が寄せられました。



出展ブースを回る組合員

森づくりの活動が 「自然共生サイト」に認定されました

「コープの森・社家郷山」は、2008年度から、兵庫県・西宮市と連携して森林整備と環境学習活動をすすめています。3月には、地域の組合員と共にすすめる生物多様性に配慮した森林整備や、多様な生き物や自然と触れ合い、自然を大切にする心を育むことを目的とした動物観察会など、地域向けの環境体験イベントが評価され、環境省が認定する「自然共生サイト」に生協で初めて認定されました。



社家郷山での伐採活動の様子

環境保全について学習しました

「誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現」に向け、SDGsをテーマに、再生可能エネルギーやリサイクルについて学べる見学会を開催。夏休みの自由研究を目的にするなど、68人の組合員親子が参加しました。西コースでは「朝来バイオマス発電所」と「リスパック(株)関西工場」を見学。東コースでは「(株)宝塚すみれ発電」と「鳴尾浜リサイクルセンター」を訪れ、環境保全の取り組みについて学びました。



地元木材を原料とした朝来バイオマス発電所の見学会

1 お買い物を通じたくらしの安心づくりをすすめます

2 つながりづくりをすすめます

3 環境や社会のためになる活動・事業モデルを促進します

持続可能な食料生産に取り組んでいます

農林水産省は、農産物の生産時に発生する温室効果ガス排出量の削減度を、星の数で表示する環境負荷低減の「見える化」をしており、エコファームが生産する「トマト」「大根」が星3つを取得。店舗から回収した食品残さなどを原料としたたい肥による土づくりや、化学農薬の使用量削減など、これまでエコファームが取り組んできたことが評価されました。

今後も、将来にわたり安心して暮らせる社会の実現をめざし持続可能な食料生産に貢献していきます。



星3つを取得したことを知らせる店舗のトマト売り場

「コープでんき」の新たな電源開発をすすめています

乳牛のふん尿が発酵することで発生するメタンガスを活用した発電施設「コープ箸荷バイオガス発電所」の本稼働準備をすすめています。発酵後の牛ふん尿から副産物として得られる消化液（液状堆肥）は地域の農業用に利用されます。エネルギーの地産地消を推進する「コープでんき」の電源開発に加え、地域資源を循環させる新たな事業モデルとしてエネルギー、食と農畜産業などのつながりを学ぶ環境学習の拠点に位置付けていきます。



本稼働準備をすすめる「コープ箸荷バイオガス発電所」(多可郡多可町)

能登の皆さんに寄り添って

コープいしかわで、コープこうべの組合員から寄せられた募金の一部(約1000万円)を活用したキッチンカーが導入されました。車内にIH調理器具を備え、能登半島地震の被災地を回り、炊き出しなどを行い、被災地の皆さんのために活躍しています。

また3月には、募金を活用し、被災地の皆さんに姫路や神戸で観光や食事を楽しみ、日頃の疲れを癒してもらう「つな♡のと」旅企画を実施しました。これからも被災地の応援を続けていきます。



「つな♡のと」旅企画に参加した能登の皆さん

終戦80年の節目に

終戦80年の節目を迎え、戦跡への旅や平和の映画会、学習会の企画を増やし、組合員と共に、平和の尊さを考える機会をつくりました。また平和への思いを表現したイラストや写真を募集。約300点が寄せられ、これらの作品をつなぎ合わせてモザイクアートを制作しました。アートを通して、平和への思いを未来につなげていきます。



組合員から寄せられた作品をつなぎ合わせたモザイクアート



「きり絵画文集『原爆ヒロシマ』」の朗読劇の上映会

生徒の学びを応援しています

コープこうべの奨学金「てとて」を通じて、修学継続と将来の夢の実現を応援しています。「てとて」は2021年、コープこうべ創立100周年を機にスタートした返済不要の奨学金制度です。コープこうべの事業エリアに居住する、高等学校、高等専門学校、特別支援学校、ならびにこれに準ずる学校に在籍する生徒を対象に、月額1万円を卒業まで給付。2025年度末の奨学生は255人で制度創設以降、158人が高校等を卒業し、進学や就職など、新たな道を歩み始めています。



奨学金「てとて」に募金をする組合員

地域や産地と協働で課題解決を

規格外原材料の有効利用、地域の活性化、工場の稼働促進など地域の課題を解決するために、生産者、取引先と協同で開発をすすめる「CO・OP NEXT100商品」。春によく獲れるものの、脂乗りが悪いため需要の少ないクロダイを使って、神戸市漁協とカネテツデリカフーズ(株)とともに「兵庫県産クロダイ使用ちぎり揚げ」を開発しました。低利用魚をおいしく有効活用した商品です。他に、余剰・規格外品のいちごを使った「兵庫県産あまクイーンいちごジャム」などもデビューしました。



兵庫県産クロダイ使用
ちぎり揚げ

兵庫県産あまクイーンいちごジャム

アプリで新たな接点づくり

コープこうべアプリを活用し、組合員との新たなコミュニケーション企画「LIVE配信」を始めました。宅配の地域担当や店舗の職員がバイヤー、メーカーの皆さんと共に、商品紹介などを行う配信の企画。視聴者から「いいね」やチャットコメントが届き、商品の購入にもつながっており、宅配で留守にされている組合員や若い世代との接点になっています。



LIVE配信に出演する宅配の地域担当

組合員アンバサダーがコープ商品の良さを伝えています

コープ商品の良さについて、より多くの方に知ってもらうと、Instagramを活用した広報を強化しています。子育て中の組合員14人を「第2期コープこうべ公式アンバサダー」に任命。コープ商品のおすすめポイントやレシピを組合員自身のInstagramで投稿する活動が3月から始まっています。アンバサダーの投稿をきっかけに「商品を試してみた」「宅配を始めた」などの声が届いています。



第2期コープこうべ公式アンバサダーの皆さん

1 お買い物を通じたくらしの安心づくりをすすめます

2 つながりづくりをすすめます

3 環境や社会のためになる活動・事業モデルを促進します

持続可能な経営基盤の確立に向けた 構造改革



宅配事業の基盤整備

働きやすい職場環境づくり

宅配では、夏の一斉休業に続き、冬の一斉休業として、年始から9連休を設定。働きやすい職場環境づくりに向けた取り組みの一環として、物量が増える年末の配達後に、職員の心身のリフレッシュを図りました。組合員の皆さんにはできるだけ不便をかけないよう、年末の特別配達で例年以上に『めーむ』の品ぞろえを増やすなどの対応を行いました。



年始休業中の協同購入センター



予告 組合員のみなさまへ 重要なお知らせです

年末年始 12/27(土)～2026/1/9(金)
個人宅配・めーむひろば・協同購入グループの
通常配達をお休みさせていただきます

年末年始の通常配達・迎春配達予定	
12/23(水)～26(土)	通常配達あり
12/27(日)	配達なし
12/28(月)～31(木)	迎春配達あり
2026/1/1(金)～9(金)	配達なし
2026/1/10(土)	通常配達あり
2026/1/13(月)～17(金)	通常配達あり

※(自動注文サービス)マイとろく・友の会商品、いつでもめーむ商品
12/27(土)～2026/1/9(金)は、登録商品のお届けもできません
※自動注文サービス(マイとろく)の詳しいお届けカレンダーは裏面にございます

いつも生協の宅配をご利用いただきありがとうございます。
この期間中は、12月27日(土)～12月31日(木)までの5日間、通常配達エリアの一部に限り、通常配達エリア外として扱われます。この期間中に配達エリア外となる場合は、配達エリア外として扱われます。この期間中に配達エリア外となる場合は、配達エリア外として扱われます。この期間中に配達エリア外となる場合は、配達エリア外として扱われます。

お問い合わせ: 0120-44-3100 (受付時間: 午前9時～午後5時) 0570-09-2100 (受付時間: 午前9時～午後5時)



店舗事業の構造改革

店舗の基幹システムを刷新

7月22日終日と23日の午前を全店舗一斉休業とし、新たな店舗システムに切り替えました。これを機に、2030年に向けて業務改革をすすめていきます。



◀新システム導入後は
売り場での作業が増加

店舗の制服を リニューアルしました

3月、店舗職員の制服を約30年ぶりにリニューアルしました。着心地と機能性を重視し、コープこうべらしさを感じられるよう、デザインに「神戸タータン」やコープこうべキャラクター「コピー」を使用しました。



新しい制服を披露する職員



営業終了候補店の取り組み

〈2025年度の取り組み結果〉

厳しい経営状況が続く7つの店舗を「営業終了候補店」として組合員と共に収支改善に取り組みました。

継続店舗	コープ兵庫・有野・西鈴蘭台・姫路砥堀
終了店舗	コープ茨木白川・打出浜・桃山台

〈2026年度の取り組み店舗〉

2026年度は6つの店舗を選定し、業績改善に取り組んでいます。

コープ吹田・コープミニけやき坂・コープ西宮南・志染・朝霧・上郡



店舗の業績をお知らせする掲示板

協同購入センター箕面が 再稼働しました

3月31日、協同購入センター箕面(茨木市)は、現地建て替え工事が完了し、2年ぶりに稼働を再開しました。当日は同センター内で出発式を執り行い、77人の地域担当が配達エリアに笑顔で出発してきました。

宅配サービスを利用いただくことで、くらしの安心づくりや、地域のつながりづくりを応援していきます。



再稼働した協同購入センター箕面

2つの安全運転センター 分室が稼働しました

協同購入センター西神戸・東神戸にそれぞれ安全運転センター分室を開設し、生協らしい運転の基礎を学ぶ拠点になっています。これからも地域の皆さんに信頼される存在になるよう「あんしん宅配」の実現に取り組んでいきます。



2拠点に安全運転センター分室を開設



学び合い・教え合いの継承

学び合い・教え合いの継承

これまで大切に育んできた組合員および職員の学び合い・教え合い、そして助け合いの精神はこれからも受け継ぎ、取り組み続けていきます。



協同学苑の方向性を決定しました

協同学苑(三木市)の事業は、2028年3月末に終了します。

自然豊かで広大な敷地を活用し、組合員や地域の方々をはじめ全国生協の職員らが学び、交流を深める場として、1991年から事業運営を行ってきました。30年あまりが経過した今、施設の老朽化が進み、経営状況の改善の見通しが立たないことから、事業終了を決めました。「学びの場」としての機能は順次、既存の拠点に移し、これまで以上に役割を果たしていきます。



健全な職場環境づくり

働いていて良かったと思える組織へ 「人事中期計画」

「コープのあるまち 協同のある暮らし」を実現する人や組織をつくるための「人事中期計画」。年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、誰もが活躍、成長し働きがいを感じながら、地域や社会に貢献する職場環境づくりをすすめています。

人事中期計画の4つの方針／

成長

職員一人ひとりの成長を
応援し、互いの成長を
喜び合える
人・組織をつくります

働きがい

働きやすさ+やりがい

だれもがコープこうべで
働くことに誇りややりがいを感じ、働き続けることのできる仕組みをつくり、
風土を醸成します

多様性

多様な職員が共に働けるよう、
個性を受け容れ、
尊重し、高め合う人・組織をつくります

公正さ

法律やルールを順守し、
安全に安心して
働くことのできる環境を整えます



「健康経営法人2026」に 認定されました

経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人認定制度」において3月、「健康経営優良法人2026」(大規模法人部門)に、2023年から4年連続で認定されました。

組合員の暮らしを支える職員の健康な体と心の維持、そして安全を保つよう「3つのゼロ」(交通事故・業務上災害・ハラスメントのゼロ)に取り組んでいます。



健康経営宣言



「パートナーシップ構築宣言」を 発表しました

7月、内閣府、中小企業庁などが推進する「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」の趣旨に賛同し、「パートナーシップ構築宣言」を策定しました。

サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者の皆さんとの連携・共存共栄をすすめることで、パートナーシップを構築していきます。



パートナーシップ
構築宣言



コープ商品について

コープ商品は、組合員の声から生まれた生協独自の商品です。
「こんなの欲しいな」「もっと使いやすくなったらいいな」
そんな声に寄り添う商品をお届けしています。



2つのコープ商品の力を合わせて

「コープこうべ商品」と、全国の生協の組合員の声を元に開発している「日本生協連コープ商品」の2つのコープ商品の強みを生かし、組合員の力を合わせて、暮らしに貢献しています。



コープこうべ商品



日本生協連コープ商品

コープ商品のコンセプト「想いをかたちに」

組合員と生産者がつながって、想いをかたちにし、育てていく。みんなが安心し、笑顔になれる。これがコープ商品です。

大切にしたい5つのこと

組合員の声に
寄り添って

安全と安心を
大切に

確かな品質と
利用しやすい
価格で

持続可能な
社会や暮らしの
ために

生産者・
組合員・職員が
つながり、
みんなで育てる

生産者との交流

組合員・職員と、生産者がつながり、相互理解を深めています。2025年度は、のべ1242人の組合員が産地交流・学習会に参加し、生産者との交流を深めました。



多くの組合員が産地で生産者と交流

食品工場の想いを引き継いで

2025年3月に稼働を終了した六甲アイランド食品工場生産品のうち、42品目が日本生協連コープ商品に生まれ変わっています。食品工場で培ってきた商品づくりの想いを引き継ぎ、これからもおいしさに磨きをかけていきます。



パンの製造を引き継いだ工場を見学する組合員

想いをつないで、これからも。フードプランは35周年を迎えています

「食べる人だけではなく、つくる人も、作物や動物、産地の自然まで含めて、健全で幸せであること。そんな社会をつくりたい。それがきつと、持続する食の未来につながるから。」そんな願いを込めて生まれた「フードプラン」は2026年、35周年を迎えています。

持続可能な食の未来のために、これからも食べる人とつくる人の「顔が見える関係」を大切にします。



はかるたいせつPROJECT

～「健康でいきいきとした毎日」はみんなの想い～



食品安全に関する情報の紹介や、健康づくりの取り組みをすすめています

「はかるたいせつプロジェクト」は、商品検査センター開設50周年の2017年にスタートしました。

商品はもちろん、一人ひとりの食習慣などを「はかる（計る、測る、量る）」ことで、

“健康づくり”のきっかけとなるような取り組みをすすめています。

はかるたいせつプロジェクト

検索



たべるをはかる

西宮市保健所、西宮栄養士会と共催で、野菜を十分にとり、バランスの良い食事を啓発する活動「野菜を食べよう ベジ活キャンペーン」を行いました。東京大学の佐々木敏先生考案の「BDHQ質問票」を活用した食習慣チェック、ベジチェック®による野菜摂取レベルの体験、栄養相談などを実施。旬の食材釣りゲームや食べ物の栄養成分にまつわるゲームなどもあり、子どもたちにも楽しんでもらいました。



10月、「ほんとうの『食の安全』を考える」をテーマにイベント「商品検査の日に学ぼう」を開催しました。多様な食品をバランス良く食べることでリスクの低減につながることや、健康に関するさまざまな情報に惑わされないよう、情報を見極める大切さなど、食の安全の基本的な考え方を学びました。



はかるをひろめる

店舗の共済相談会などで、健康への関心を高めてもらうよう、測定器を使った健康測定を実施しました。また、健康状態やライフステージに合わせた保障を提案し、保障を見直すきっかけづくりを行っています。



カラダをはかる

感染症予防や食中毒予防の基本は手洗いです。手の汚れを調べる測定器を使った体験を通して、正しい手洗手順の普及活動を行っています。



「フレイル」とは、病気ではないけれど、年齢とともに筋力や心身の活力が低下した状態のこと。オンラインアンケートや学習会を開催しフレイル予防について伝えています。



健康チャレンジ



兵庫県内、大阪府内の生協の仲間と共に「健康チャレンジ」を実施しました。自分が選んだ健康づくりのプログラムを継続できるようにサポートしました。



2025年度、商品検査センターでは、商品検査(3654件)による商品チェック、商品お申し出調査(2722件)により組合員の声に応える活動を実施しました。詳細は広報誌『Hakaru(はかる)18号』をご覧ください。



阪神・淡路大震災から30年

私たちのまち、暮らしに甚大な被害を与えた「阪神・淡路大震災」から30年あまりが経過しました。計り知れない傷や悲しみを経験しながらも前を向いて歩んでこられたのは、多くの仲間とのつながり、励まし、支え合いがあったからです。



「共に備えるプロジェクト2030」を始動しました

節目を迎えた今、災害に「備える」さらなる一歩を踏み出します。食料備蓄の習慣づくりや避難場所の確認、訓練など、自らができる備えを考え、また過去の体験から、住民同士が助け合い、つながることを大切にしていきます。困ったときこそ、寄り添い、安心を与えられる存在になるよう、共に備え、未来へつないでいきます。



「備える」ことの大切さを伝える売り場



防災訓練を行う地域住民



地域の方々のつながりを深める協同購入グループ

終戦から80年

多くの尊い命が奪われた戦争の終結から80年が過ぎました。私たち生協の活動には、平和への願いが息づいています。1981年から40年以上続いている募金活動「平和のカンパ」には、組合員の大切な願いが込められています。



平和の尊さを学びました

終戦から80年を迎え、組合員と学びを深めてきました。未来を担う子どもたちと戦跡を巡る旅や平和の映画会、学習会を開催。改めて今のくらしが当たり前ではないことに気付きました。戦争を二度と繰り返さないよう、体験を語り継ぎ、歴史を学び、平和の尊さを未来につないでいきます。



被爆地・広島に戦跡を自転車で行く旅



沖縄の戦跡を巡る親子



語り部の話を聞く中学・高校生



長崎平和のカンパ寄贈の旅に参加した中学・高校生が、報告の一環として学んだことをまとめた新聞が、神戸新聞社主催の「ことまど新聞コンクール」で大賞を受賞しました。

2025国際協同組合年

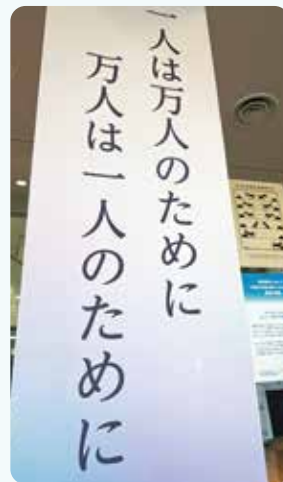


国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

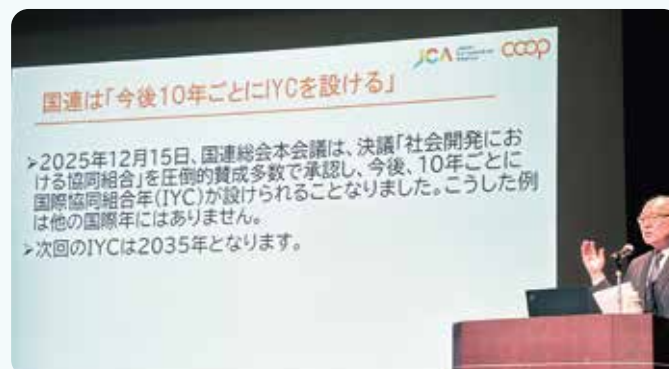
国連は、さまざまな分野でSDGs(持続可能な開発目標)に貢献している協同組合を評価し、その認知の向上を図ろうと、2025年を2012年に続き2回目の国際協同組合年に決めました。

これを受け5月、「国際協同組合年に当たり協同組合の振興を図る決議」が衆議院本会議、参議院本会議で採択されました。



協同組合を学び直し、仲間との連携も深めました

国連の決議に基づき、今後10年ごとに「国際協同組合年」を設けることを決定しました。これからも協同組合同士のつながりを大切に、より一層SDGsの達成に向けた取り組みをすすめ、助け合い、支え合い、やさしさがあふれる地域社会の実現をめざしていきます。



▲ 協同組合の仲間が協力して実施したかいぼりの様子



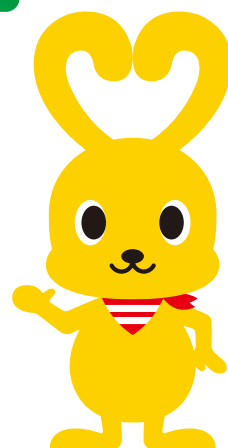
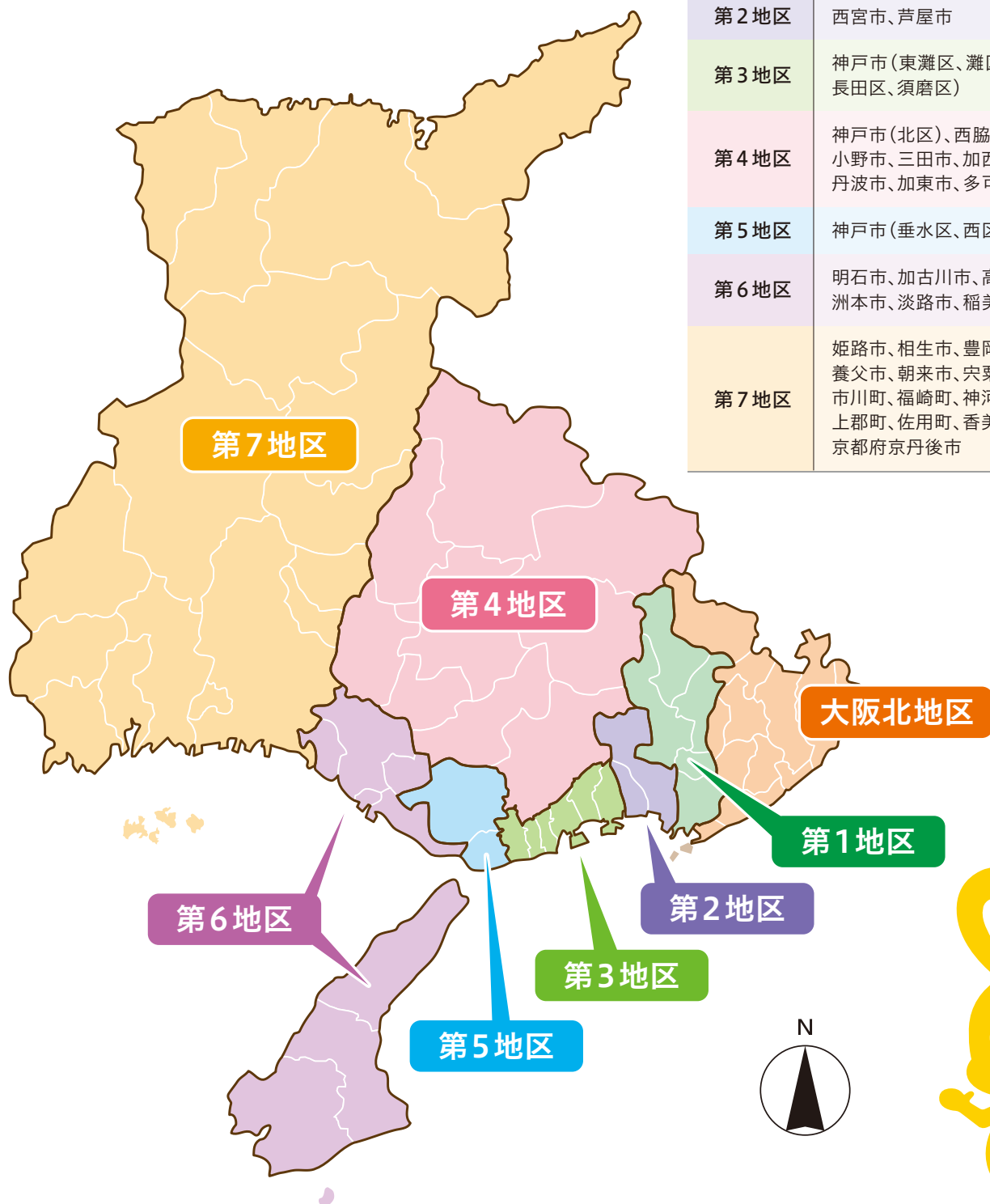
11月、「協同組合の役割と可能性の再考」と題したワークショップをオンラインで開催し、大学生や若手職員がドイツの若者と交流。ドイツの農村協同組合の創設者ライファイゼンと日本の生協の父、賀川豊彦について学び、助け合いの精神を大切にする協同組合への期待を改めて感じました。

8つの地区について

コープこうべでは、活動エリアを8つに区分し、
エリアごとに地区本部を設置しています。
各地区本部は、行政や地域団体との連携・協力を強め、
地域のニーズをきめ細かく把握し、
活動・事業を推進しています。

地区別 活動エリア

大阪北地区	大阪市(西淀川区、東淀川区、淀川区)、 豊中市、池田市、吹田市、高槻市、 茨木市、箕面市、摂津市、島本町、 豊能町、能勢町
第1地区	尼崎市、伊丹市、宝塚市、川西市、 猪名川町
第2地区	西宮市、芦屋市
第3地区	神戸市(東灘区、灘区、中央区、兵庫区、 長田区、須磨区)
第4地区	神戸市(北区)、西脇市、三木市、 小野市、三田市、加西市、丹波篠山市、 丹波市、加東市、多可町
第5地区	神戸市(垂水区、西区)
第6地区	明石市、加古川市、高砂市、南あわじ市、 洲本市、淡路市、稲美町、播磨町
第7地区	姫路市、相生市、豊岡市、赤穂市、 養父市、朝来市、宍粟市、たつの市、 市川町、福崎町、神河町、太子町、 上郡町、佐用町、香美町、新温泉町、 京都府京丹後市



コープこうべ概要

(2026年3月31日現在)

- 名称 生活協同組合コープこうべ
- 設立 1921年(大正10年)
- 所在地 〒658-8555
兵庫県神戸市東灘区住吉本町
1丁目3番19号
- 出資金 348.5億円
- 供給高 2429.2億円
- 組合員数 169万8630人
- 世帯加入率 47.0%
※活動区域の世帯数に占める組合員数の割合
- 活動区域 兵庫県全域・京都府京丹後市、
大阪府北部(大阪市淀川3区、
豊中市、池田市、吹田市、高槻市、
茨木市、箕面市、摂津市、島本町、
豊能町、能勢町)
- 事業内容 宅配や店舗で食品を中心とした
商品の供給事業を実施。くらしに
関するさまざまな領域の事業活
動を展開し、組合員や地域の皆さ
んと共により良いくらし、地域、社
会の実現に取り組む
- 職員数 9039人
- 事業所 住吉事務所／1カ所
地区本部／8カ所
店舗／129店舗
協同購入センター／22事業所

アンケートのお願い

今後の報告書づくりの参考に
させていただきますので、
皆様のご意見・ご要望を
お寄せください。右上のQRコード®を
読み取って、入力をお願いします。



◀ ホームページ
<https://www.kobe.coop.or.jp>



Instagram ▶
<https://www.instagram.com/coopkobekoho/>



コープこうべグループの紹介



(株)コープムービング

- 貨物運送事業
- 折込チラシセット業務
- 物流センター構内作業
- 福祉用具レンタル業務
- 地域担当業務 など



(株)コープフーズ

- すし、惣菜類、弁当、パン類の製造販売
- 「まいくる」・中学校給食などの給食事業
- インストアペカリー「小麦の森」の運営事業



(株)協同食品センター

- 農産品・水産品・畜産品などの加工、盛り付け、包装 など



(株)コープエイシス

- 各種保険
- 収納代行



阪神友愛食品(株)

- リサイクルに関する業務
- 知的障がい者の職業訓練
- 食品の包装業務 など



コープ住宅(株)

- 増改築リフォームの企画・設計・施工・アフター管理 など



(株)コープライスセンター

- 精米加工業 など



(株)コープ環境サービス

- 施設の清掃・警備・保守管理
- 店舗検収業務
- ホームサービス事業
- 再生可能エネルギーを利用した発電事業 など



(株)ゆうあいサポート

- リサイクルに関する業務
- 施設内の清掃業務



(株)コープエコファーム

- 農産物生産・販売事業
- 農業体験学習事業
- 貸農園事業
- 太陽光発電事業



コープこうべ コミュニケーションレポート2026

編集・発行/生活協同組合コープこうべ 広報室

2026年6月発行